

1 自己評価及び外部評価結果

作成日2019年5月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670102456		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ富山萩原グループホーム		
所在地	富山市萩原179-1		
自己評価作成日	2019年5月2日	評価結果市町村受理日	2019年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○医療連携に関して、訪問看護ステーションとの連携により相談体制が確保され入居者の健康管理もできているとともに、特に看取り期の方のケアにおいて職員の不安の軽減にもつながっている。</p> <p>○身体拘束禁止委員会を立ち上げ、運営推進会議ごとに報告を実施している。</p> <p>○社内研修と認知症に関する研修を毎月実施している。認知症に関する研修は、実践者研修者が講師となり、全員に周知をおこなっている。</p>

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	2019年5月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>かかりつけ医と訪問看護ステーションとの医療連携が図られており、利用者、家族の思いを大切にしながら、安心して、穏やかに過ごせるよう支援に努めている。事業所として社内研修や外部研修に取り組み、職員の質を高めている。職員が利用者から心癒されたことを記録する「にこりほっとノート」の活用で、新たな気づきも生まれている。家族へは、毎月「ふれあい便り」で利用者の写真や体調などを報告し喜ばれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

ツクイ富山萩原グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と各ユニットに掲示し意識している。	利用者の尊厳を大切に、事業所独自の理念を定め、研修会やミーティング時に再確認している。利用者の住み慣れた地域の思い出を大切に、楽しく安らぎのある、家庭的な環境を提供できるよう支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中などで声をかけて頂く事も増えてきている。しかし、地域の一員であるという日常的な交流までには至っていません。課題となっている。	利用者にとって地域との関わりが大切との思いで、春祭りの子供御輿を事業所に招いたり、公民館でのクリスマス会に参加するなど、地域との交流に努めている。	地域の情報を得るためにも、回覧板を回してもらったり、地域行事に参加したりして、活発な交流を図られることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室や清掃への参加を通して認知症の方への理解を深めたいと考えているが、うまく連携をとる事ができていなく貢献度は上がっていない。一部の方々を除く、地域との距離感がある事が課題だと考えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催は行っているが、地域の方やご家族の参加が減ってきている。昨年度からは運営推進会議の場で高齢者虐待禁止委員会の活動報告も実施しているので、参加者を増やす努力を続けたい。	運営推進会議は民生委員や地域包括支援センターが委員となり定期的開催されている。事業所からは、ケアの取り組みや、高齢者虐待禁止委員会の活動などを報告している。	今後家族の参加を増やすために、ケアの様子をビデオで紹介したり、地域との交流を深めるためにも町内会や老人会にも声かけし、参加者を増やす取り組みが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年度初めて認知症カフェを開催した。今後継続する予定で、地域の皆さまが気軽に来訪できる場所でありたい。また、地域包括支援センター主催の勉強会では講師を務めたり運営の手伝いも実施している。	地域包括支援センターとは、事業所のケアの様子や申請手続きの都度出向くほか、認知症カフェを開催し、地域の人達が気軽に事業所に足を運んで頂けるよう取り組んでおり、協力関係に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の研修を定期的実施している。	身体拘束をしないケアに関して、勉強会を開き、管理者、職員ともに認識を共有できるよう取り組んでいる。利用者の人権を守ることを基本に、言葉による拘束に注意し、不安な振る舞いがあれば利用者に寄り添うなど、利用者の安全面を重視しながら、ケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止委員会を立ち上げ、身体拘束とともに虐待防止についても話し合いを実施し、運営推進会議ごと開催報告を行っている。定期的な研修も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	eラーニングで学ぶ事ができるが、職員が直接学ぶというより、常勤職員が学んだ事を伝達研修で報告する事が多い。定期的な研修も実施している。実際にご家族から相談を受けた場合には、管理者に伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の前には契約にかかる時間を伝え、途中で切り上げる事のないように、余裕のある日程で調整をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが実際にご意見が入っている事はない。そのため、面会の時など管理者や職員からお声をかけさせて頂いている。また、介護相談員の来訪日を知らせるなど、第三者への発言もできるようにしている。	家族が面会に訪れた時に、意見や要望を聞くよう努めている。毎月送っている「ふれあい便り」に利用者の写真や体調を報告しており、利用者、家族の忌憚のない意見を集約している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には日々声を掛けている。現在の困りごとをたずねたり、日常会話の内容から、面談の実施を決めて個別面談を設ける事もある。	管理者は日常業務の中で、職員の意見や要望を聞いており、職員に変化があれば個別面談を随時行うなど、職員とのコミュニケーションを図っている。職員は認知症ケアや看取りについて積極的に取り組んでおり、ケアに対する意識は高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年の10月に非常勤職員の時給改定を実施した。個々に勤務の条件が違っているため、シフトを作る際には個別に声をかけている。また、フリーダイヤルで相談窓口も設け、管理者へ言えない事などを報告できるシステムも作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定期研修と認知症に関する研修を実施している。また、外部への研修も該当者や希望者が参加できるように掲示をしている。社内でも三幸カレッジと提携をして割引価格で資格取得ができる制度や資格取得のお祝い金支給制度も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターとの連携をとっている。また、昨年度は近隣のグループホーム2か所の見学を実施した。改めてお互いの悩みや運営の違いなどを話し、顔の見える関係づくりから学ぶ機会を設けることができた。継続したいと考えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居以前に面談を実施している。事前の情報をご家族やケアマネジャーから得て、今後の生活についてのご希望を聞くなど、まずはご本人が話しやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほとんどの方が、申し込みからすぐにご入居につながるわけではなく、待機の時期がある。最初のお申込み・見学・待機の時期と、ご入居までの期間にも連絡を継続している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前の面談には、管理者とケアマネジャー、又は介護リーダーが同行し、決して偏った判断をしない。ご家族の中には、各居住系サービスの違いが理解できていないままお申込みをする方もいらっしゃるもので、それぞれの特徴をご説明をすることも多い。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ささいな事でも決めつける事なく、選択しながら生活ができるようにと考えている。日々の暮らしに選択がある事で「介護されている」という気持ちが少なくなればと考えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お忙しく、なかなか面会に来られないご家族には電話をして近況を伝えている。また、電話を交代してご本人と話をしてもらい、手紙を書いてもらうなど、関係性が途切れないように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居の際には私物として大切なものを持参して頂いている。また、昔からある喫茶店などの名前が出た時には、職員と一緒に出掛けるなどの工夫をしている。	利用者の記憶にある場所や人について教えてもらい、機会を設けて出かけている。関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中にはおひとりが好きという方も増えてきている。個々の想いを聞きながら席を決めたり、家事の分担を決めている。看取り期の方へは、お部屋へお見舞いに行ったり、最後の時にはお別れをして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院へ移った方へは、お見舞いに行ったり、提供できる情報があれば提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご自分の意見や気持ちが言える方は発言して頂き、できる範囲での希望を叶えたいと考えている。気持ちを言葉にできない方には、アセスメントやその時の表情から検討している。	利用者の表情を見る、ふれあう、会話するなど、常に職員が焦らずゆったりとした気持ちで接するよう努め、思いや意向の把握に取り組んでいる。困難な場合には、家族からの情報や生活の視点を考えるなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の話、写真を見せて頂くなどして、過去の情報を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に好きな場所・好きな事が違っているので、自由に過ごしてもらっている。時には口喧嘩が起きたりするが、それも日常ととらえ、つかず離れず見守りを行い、危険のない状態を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや介護記録を通して現状の把握・確認を全員で行う。	カンファレンスや介護記録の他、利用者との関わりの中、心癒されたことを記録する「にこりほっとノート」の活用で新たな気づきもあり、介護計画に活かすこともある。常に見直しを行い現状に即した介護計画に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や連絡ノート、医療連携に関する記録などのほかに「にこりほっとノート」を作成し、職員が共有している。そこから以外な発見があり、ケアプランに活かされる場合もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一昨年より、グループホーム内での共用型認知症対応型通所介護事業を開始した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークル活動への参加までできるようになりたいと考えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居の際に、今までの主治医と協力医のどちらでも良い事を伝えている。ご家族によっては主治医の変更を希望されない方もいらっしゃるが、日々のバイタル測定や訪問看護との連携の中で速やかな受診対応を心掛けている。	かかりつけ医や訪問看護ステーションとの医療連携が図られており、利用者の変化に速やかに対応できる体制が出来ている。家族と連絡を取りながら、いつでも適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をし、24時間体制で連絡がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室やソーシャルワーカーとのやり取りを行い、情報交換に努めている。病院の研修会や勉強会への参加も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を策定し、ご入居の際に説明をしている。また、状態の変化に伴い、主治医・ご家族との話し合いも重ね、今後の方向性を共有し支援を行っている。	重度化や終末期に於いては、医療連携が24時間体制で確立されており、事業所の取り組みを家族に説明し、今後の方針を共有できるよう努めている。職員の看取りに対する意識も高く、最後まで穏やかに過ごしてもらえよう、尊厳をもって支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内研修を定期的に行っている。また、外部の研修会への参加も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練への地域住民の参加が行われていない。	定期的に避難訓練を行い、各階の避難は利用者への負担を考慮しながら実施している。また職員の緊急連絡メールは、抜き打ちで行い非常時に備えている。	自然災害に対する地域との情報交換も必要であり、地域の防災訓練などへの参加や、ライフラインが使えない事態を想定した備蓄品などの見直しも望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接するよう心掛けている。接遇マナーの研修も定期的に行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、それぞれの時間の過ごし方を大切に見守っている。また利用者に対しては、嘘や曖昧な言葉かけは行わず、プライドを損ねない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に、全員に行きたい場所・食べたい物・買いたい物など、たずねている。時に個別だったり、談笑のなかだったり場面は変わる事がある。日々の生活では飲み物やおやつを選択ができるように工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員の希望に沿う事は困難だが、日により、個別の対応を行う事がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものは何点かの中から選択してもらっている。選ぶ事が難しいかたには「はい」「いいえ」がわかる聞き方をしている。毎月ヘアカットがあるが、白髪染めやパーマも行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人にはキッチンに入っていたき、野菜のカット・盛り付け・洗い物などを一緒に行う。	利用者一人ひとりの食べ方にもこだわりがあり、時間をかけて勤めている。盛り付けや配膳など、お手伝いしてくれる利用者も多く、自主性や経験を活かす場にもなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に看護記録に記載し、訪問看護師や主治医に提示している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否がある方もいらっしゃるので全員というわけにはいかないが、実践している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレまで遠い方には居室にポータブルトイレを使用している。また、歩行が困難な方へも、介助でトイレの使用を行っている。	トイレでの排泄に努め、自立に向けた支援を行っている。介助が必要な方には小声で誘導し、一つひとつの動作にも本人の了承を得て手伝えるなど、自尊心を傷つけない対応に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食物を取り入れたり、起き抜けの水分補給を実践している。体操の時には腹部を動かすひねり運動もとりにいれているが、便秘になりやすい事も事実で、医療との連携を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	全員が時間を問わずという事は難しい。入浴が好きな方には長く入ってもらっているが、入浴の拒否がある方にはご家族の協力を頂く事もある。入浴剤を選んでもらう事も楽しみの一つと考えている。	入浴を嫌がる利用者には、着替えの準備から本人と共に行い、無理強いすることなく入浴まで繋がるよう取り組んでいる。また季節を感じてもらえるよう、菖蒲湯や柚子湯などで利用者を楽しませている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遅くまで本を読んでいる方や考え事をして眠れない方には、職員から働きかけて話を聴いたり、飲み物を出すなどの工夫をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際には薬剤師も同行しているので、薬に関する相談を行いやすい。特に、薬が変わった時は医師への報告のため、細かく経過を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に得意・不得意があるので、情報を共有して工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時期には少しの時間でも外気浴ができるように工夫をしたり、他ユニットへ遊びに行き交流を図るなどしている。ご家族や地域の方への協力を働きかけた事もあるが、なかなかうまくいかず、課題でもある。過去にはポートラムに乗り岩瀬へ出かけたり、桜の時期に遊覧船に乗るなども実施していた。	お天気を見ては気分転換のため、ご近所の庭を見学したり、土手沿いを散歩して草花を観察したり、また最近ではコンビニでコーヒータイムを過ごすこともある。ユニットごとに護国神社への初詣や植物園での花見などに出かけ、ドライブも兼ねて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居の際には、ご家族の協力も頂き、あまり大金ではない額を持って頂いている。買い物の時など、ご自分で支払いを行う方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近では携帯電話を持参されている方も増えている。電話の希望があるときには事業所の電話を使用して頂いている。請求書の中にご家族への手紙を入れて送る事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビが好きな方が増えてきている。耳の遠い方に合わせるとテレビの音量がどうしても大きくなる。気になる方は離れた場所に移動してもらおうか気分転換にフロアを離れるように配慮している。また、大きな声で独り言を言う方もいらっしやるので、その都度皆さんの表情や言動を見ながら対応している。	大きな窓から立山の峰々が見られ、解放感あるリビングには心地よい風が通っている。体操をしたりコーヒータイムで和んだり、明るい雰囲気が感じられている。また食事時には、体調不良で食事が進まない利用者に、食べやすい料理を勧めるなど利用者同士の思いやりや気遣いが見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その場の雰囲気に合わせ席を移動できるように椅子などを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際には使い慣れた家具を持参してもらっている。また、ご家族の写真なども見える場所に飾り、家族とのつながりを感じてもらえるように工夫している。混乱を招くような物は片づけている。	自宅で使っていたベッドやテレビを持ち込み、寝ころびながら時代小説を楽しんでいる利用者もいる。また大事な人の位牌を置くなど、いままでの生活スタイルを変えることなく過ごせるよう、家族と共に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン解放し、入りたいときに入れるような環境にしているので、危険な物は片づけている。洗濯ものもさりげなく置いておくと、どなたかが自発的にたたんで下さる。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ツクイ富山萩原グループホーム
作成日 令和元年6月7日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との日常的な交流の機会を増やしたい。	①回覧板を再開し、事業所の情報発信をする。 ②現在続けているお茶会の継続と新しい合同イベントの開催。	①自治会長に相談し回覧板の日程と参加の可否を確認する。 ②入居者様が希望するイベントの聞き取りと実行。	6か月
2	3	運営推進会議への参加者が少なく、参加者も決まってしまう。 地域への周知もされていない。	①自治会へ協力をお願いをする ②ご家族へは日程の連絡だけではなく協議の内容をお知らせして参加を促す。	①自治会長を通し、福寿会にも通知をする。 ②運営推進会議の前月に出欠をとっているのので、その際に議題を提示し、ご家族のご意見を書く欄を設ける。	6か月
3	13	自然災害に対する地域との情報交換や協力体制を築く事ができていない。災害備蓄品の定期的な入れ替えを実施して災害に備えたい。	①自治会の避難訓練へ参加する。 ②事業所の避難訓練の周知と近隣住民への参加を呼び掛ける。	①自治会長を通し、水害対策についての情報交換を実施する。 ②事業所の避難訓練を周知し、近隣の方へ参加（見守り含め）を呼び掛ける。	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。